

唐三彩婦人俑・馬俑



古代中国では貴人の墓にあの世での生活に困らぬように家来や馬等を模した焼き物を埋め供養した。始皇帝の兵馬俑は有名である。
この婦人俑・馬俑は焼物技術の向上により着色されたもので、貴重な存在。

五彩大瓶



龍は皇帝の象徴、鳳凰は皇后の印とされる。
龍にも5本指・3本指の種類があり、5本指が皇帝、3本指が貴族とされている。幾つか宮廷丁度の陶器があるが、そこに描かれている龍に注目して頂きたい。

新羅金板経



経年変化の少ない金板に經典を写したもの。元来は折本形式で一冊の經典。内容は千手観音の手の形を図示している。
完全な形の金板経は韓国では国宝に指定されている。

比翼の鶴



皇女和宮の婚礼調度の一つと言われる。一見するとプラスチック製の羽根をあしらった造り物に見えるが、羽根は全て象牙、口ばし等にはべっ甲が使用されている。これだけの材料をふんだん使用していることから、皇女の婚礼用具というのも納得できる。

村岡山名の御廟・供養塔



一二峠御廟

三代・矩豊公が城下町村岡を開くに当たり、領内の中央に初代・禅高公のお墓を妙心寺より分祀し、その加護を願った。

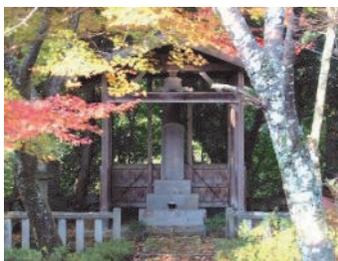
(村岡区菟山)



壺溪御廟

三代・矩豊公より十代義問公までの廟所。各墓石とも從三位の家柄に相応しい風格を保つ。戦前は県重文指定。

(村岡区水上)



御殿山御廟

十一代・義濟公以降の廟所。旧陣屋跡にある。桜と紅葉の隠れた名所。

(村岡区御殿山)



山名赤松供養塔

山名赤松両子孫が播但で争ってきた両陣の慰霊の為に協力して建立。

(朝来・竹田城中腹駐車場)

東林山法雲寺／山名氏史料館『山名蔵』

〒667-1311 兵庫県美方郡香美町村岡区村岡2365
TEL:0796-98-1151 FAX:0796-98-1161
法雲寺HP houun.jp / 山名蔵HP yamanaizoku.org
電子メール houunji@gaia.eonet.ne.jp

藩公山名氏菩提寺 東林山養安院 法雲寺 山名氏史料館『山名蔵』



源氏の中の源氏「山名氏」

山名氏の本姓は源氏。その起源は平安時代末期(1175年頃)。清和源氏の流れを受け継ぐ新田義範が群馬・山名庄を本貫とし、山名を名乗ったことから始まる。

源頼朝の拳兵にいち早く呼応し鎌倉に参陣。源平合戦では源義経に従い多大な軍功を上げ、「平氏追討源氏受領六人」の筆頭に名を記し、伊豆守に任ぜられる。また頼朝と同族である「御葉門」を称する榮に預かる。

室町時代、同族・新田氏の流れを汲む足利幕府に於いて幕府の重責「四職家」の一つに名を連ね、山名時氏が山陰地方に勢力を拡大、山名氏清の頃、全国六十余州の内西国十一国を治める「六分の一殿」と言われた。

將軍後継問題に端を発する応仁の乱では、山名宗全が西陣の式を取ったが十年続いた乱により、幕府・各守護大名の勢力衰退が進み、山名領内においても毛利・尼

子・大内らの力が増し、西国の分国も徐々にその数を減らす。戦国時代後期には山名佑豊の但馬、山名豊国(禅高)の因幡の二ヶ国となっていた。

豊臣秀吉の但馬征伐で宗家・但馬山名は破れ、豊国(因幡)は秀吉の軍門に下って山名の名を守り、秀吉、徳川家康・秀忠の御伽衆として側に仕えた。

江戸時代は村岡山名藩として歴代十二代が交代寄合衆としての務めを果たし、明治維新で村岡藩は村岡県へ、村岡山名十二代義路が県知事就任。その後、豊岡県・兵庫県へと吸収。義路は上京し陸軍軍人・貴族院議員等を歴任。從四位・男爵。以降、数代続いて現在に至る。

武家社会の発祥から明治に至るまでの間、営々と各時代に於いて歴史に名を留めた源氏の武家は他に無く、山名家は正に「源氏中の源氏」と言われる由縁である。

藩公山名氏菩提寺 法雲寺 沿革

当山の草創は定かでは無いが、南北朝の頃(1350頃)にその端緒が認められる。建武の中興に功あった藤原藤

房そうひつが出家し法名を宗弼と名乗り、妙心寺へと入山、その後妙心寺二世となられた。当時、この地の多くが妙心寺の荘園となっており、この荘園に宗弼は父母供養の願いを託して報恩寺と名付けた政所を建立し、荘園の管理運営に当たらせて居た。

時代が室町から戦国時代へと移るにつれ荘園は弱体化し、江戸時代(1603)には当地を含む七美五郷うづか(兎塚・熊次・村岡・射添・小代)一帯は山名氏の所領となり、藩の中心地を兎塚に据えた知行体制となった。



参勤交代制等江戸幕府の骨格が確立した寛永19年(1642)頃には、村岡山名三代・矩豊公が藩都を兎塚より、小集落であった当地に移し、城下町・村岡の街作りを進めた。

また在地の荘園政所であった報恩寺(ほうおんじ)を法雲寺(ほううんじ)と改め、山名氏太祖義範公以来の宝牌を奉安し、山名氏の総菩提寺として定めた。

熱心な法華経信者であった矩豊公は、法雲寺の宗派を当初の臨濟宗(妙心寺派)から日蓮宗へと改め、更に交代寄合衆という山名家の立場からか(不受不施派改宗との関連か?)、元禄4年(1691)に天台宗へと改宗し現在へと伝わっている。

山名氏史料館 山名蔵

村岡山名三代・山名矩豊公350年忌を記し法雲寺に代々伝わる山名家縁の文物を保管展示するために昭和45年に設立。

その後、昭和60年に「全国山名氏一族会」が結成され、

山名氏縁の方々から各家に伝わる武具・文物が寄せられ、収納スペースも手狭となり、平成3年に現史料館建設。

また、郷土出身の美術品蒐集家「濱田叡観」師の中国陶器を中心とする貴重なコレクションの寄託を受け、徐々に展示品も充実し現在に至る。



初代「山名蔵」(昭和45年ころ)

展示史料ご紹介(抜粋)

山名禪公寿像



因幡国最後の守護職にして、村岡山名の初代・豊国(禪高)公の図像。豊国公については「日和見」「暗愚な総大将」等、余り良い世評は聞こえないが、鎌倉から現代にいたる源氏・山名氏800年の流れを守り通した最大の功労者と言える。

金小札緋威二枚胴具足



山名と言えば“赤入道”とあだ名された山名宗全(持豊)。山名氏最盛期の応仁元年、天下を二分する応仁の乱が勃発。宗全は西陣の総大将として指揮を執った。その戦場装束を再現。

宗全公ご愛用馬具



宗全公ご愛用の馬具。全体(柄杓共)に螺鈿が散りばめてあり、身分の高い武将が愛用していたことをうかがわせる。正面には丸二の家紋が入り、裏面には宗全の花押が記されている。

村岡陣屋図



明治維新を向え大政奉還・版籍奉還等の局面を迎え、大名はその身分を華族へと変え、東京に集められ、城や陣屋はその役割を終える。この図は取り壊し前の陣屋を描いたもの。他に建設時の図も展示している。

将軍家拝領大筒



初代・禪高公は源氏の名流山名の宗家、また連歌等の教養を備えた武人として豊臣秀吉、徳川家康・秀忠と重用され側に仕えた。秀吉からは形見分けに預かり、徳川からは葵紋入の膳具・大筒等の拝領に預かる。逆に見れば豊臣・徳川の「名流」への関心の深さが伺える。

猿尾滝観瀑図

八代・義方公は金山峠への道沿いにある猿尾滝を好まれた。書画に描き、また、「そうめん流し」を楽しんだと伝えられる。絵の様子からも、滝への愛着が伝わってくる。